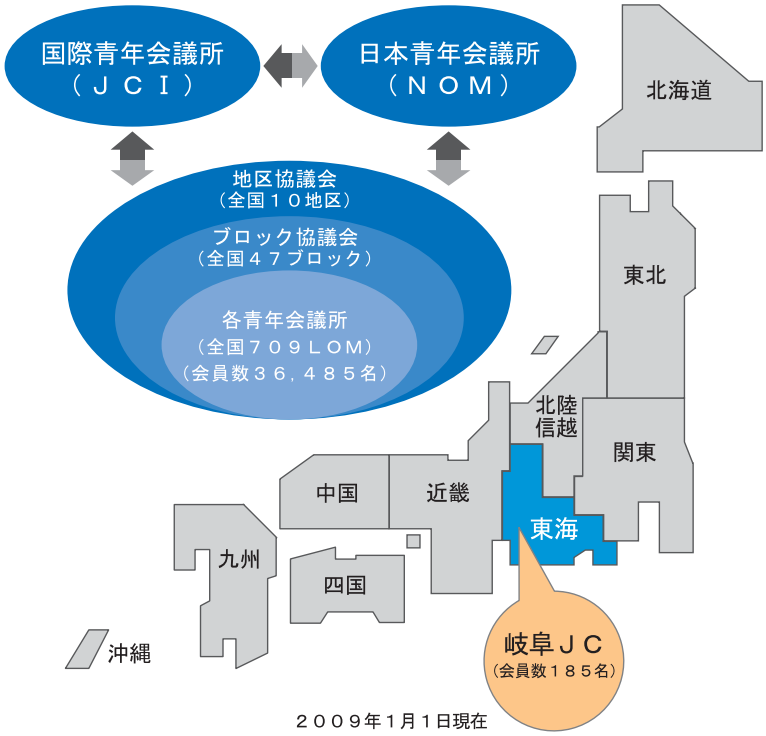
青年会議所（ＪＣ）とは

１９４９年、一人の青年の想いから東京で始まった青年会議所運動は、６０年の歳月を経て、戦後日本の民間運動の白眉といわれるほどの拡大発展を遂げました。日本国内の７０９都市･地域で活動を続け、会員３万６千余名を擁する、青年運動最大の団体となりました。その７０９の青年会議所は各県を主な単位として集まり４７のブロック協議会を構成し、さらに国内を１０地区に分け、地区協議会を設けています。そして各地の青年会議所や協議会を支援・連絡調整する機関として日本青年会議所があります。世界中では約２６万人のメンバーが同じ理念を共有し運動を行っています。

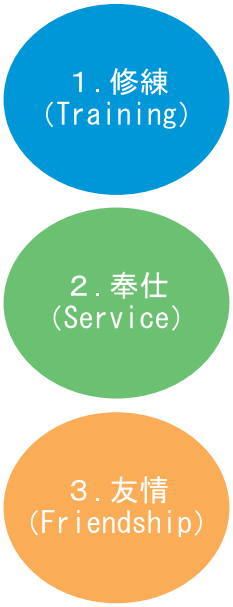


ＪＣ三信条とは

ＪＣの目的は「明るく豊かな社会」を築くことです。そして、その目的を達成するために「ひとづくり・まちづくり」運動を展開し、様々な活動を行っています。ＪＣでは、活動における原則であり基本としてＪＣ三信条「修練」「奉仕」「友情」を定義しています。

ＪＣの社会への「奉仕」は、現実の社会や世の中の仕組みをしっかり理解した上で行われ、地域の住民や行政から賛同や共感を得るものでなければなりません。そのために、メンバー一人ひとりが「修練」を積み自らの資質向上に努め、説得力のある人間となる必要があります。そして、全メンバーが共に汗を流し成果を得たときに、本当の意味での「友情」が生まれるのです。

これからの活動において常にＪＣ三信条を意識して取り組んでください。



「ひとづくり・まちづくり」について

ＪＣでは三信条のもとに「明るい豊かな社会」を築こうとして運動を進めています。そのＪＣ運動の両輪となるのが「ひとづくり」（指導力開発）と「まちづくり」（社会開発）を中心に据えた「ひとづくり・まちづくり」運動です。

住環境や都市開発などのハードの整備も重要ですが、ＪＣでは住民･行政･企業と共に地域の衣食住に関わる問題について積極的に関わり、提言や地域活性化事業など様々な活動を行っています。そして、その活動を支えるために、ＪＣメンバーは様々な事業を通して人間性や経営者或いは地域のリーダーとしての資質の向上を図ります。しかし、ＪＣメンバーだけでは地域は良くなりません。ＪＣでは、住民や青少年、企業経営に携わる方に対しても事業を行い、地域社会のリーダーとなるよう学べる機会を提供しています。

岐阜ＪＣのあゆみ

◆ 創始

岐阜ＪＣは、戦後復興期の混乱の中、岐阜財界各士の呼びかけにより、１９５１年６月２４日、全国で２１番目の青年会議所として会員４３名で発足しました。創始以来、長きに亘り、諸先輩方がぎふのまちの発展やそこに住む人々のために情熱をもって活動を積み重ねられてきました。

◆ 時代に合わせた運動の変遷

岐阜ＪＣの創立２５周年記念事業として、１９７６年から３２年に亘り「道三まつりみこしパレード」を継続しています。また、１９８６年には創立３５周年事業として「長良川薪能」を開催。以後、薪能は、２００６年まで岐阜ＪＣの事業として岐阜のまちの〝賑わい〟創出に大きく貢献してきました。

バブル経済崩壊後は、新たな世紀の到来に対応した活動を継続していくため、１９９３年、効果あるまちづくり運動の活動指針“Ｒａｉｎｂｏｗ　Ｂｒｉｄｇｅ．ＧＩＦＵ２１”を策定し、その後、地方分権が声高に叫ばれた１９９８年には、ぎふのまちのアイデンティティ（個性）を踏まえた“広域的なまちづくり”に焦点をあて「水と緑の共創都市ぎふ」をまちづくり運動ビジョンとして掲げ、活動してきました。

現在では、時代の背景を踏まえた具体的な行動指針として「アクティブコンパクトシティぎふ」という新たなビジョンも策定し、２００６年にはスポーツチャレンジぎふ、２００８年にはスィーツフェスタぎふを開催し、実効の上がる様々な事業に取り組んでいます。さらに、自分たちの住むまちの魅力を再認識し、行政との意見交換会や行政への政策提言等を積極的に行い、日々まちづくり運動を実践しています。

岐阜ＪＣの「まちづくり運動ビジョン」

岐阜ＪＣでは、人々が「住み続けたい」「住んでみたい」と思う、個性豊かなぎふのまちを築くことを目指し、以下のようなまちづくり運動ビジョンを掲げ活動しています。

住環境に優れ心豊かに暮らせる"まち" すなわち “安らぎ”

産業が集積し人や企業が活発に交流する"まち" すなわち “賑わい”

地域を愛し思いやりに満ち溢れた人々が共働する"まち" すなわち “助け合い”

この３つの要素を備えるまちの理想像

アクティブ
人・物・情報が集まり活力に溢れ、力強く成長し続けるまち

コンパクトシティ
高い都市機能を持ちつつ、豊かな自然や歴史・文化、産業、快適な暮らしが凝縮されたまち

ACTIVE COMPACT CITY GIFU
～安らぎ 賑わい 助け合いのあるまち～

まちづくり運動ビジョン実現に向けてぎふのまちを支える３つの力

市民力
市民が
●社会の規律を守る
●地域を愛する
●主体的にまちづくりを行う

企業力
企業が
●経営体力を高める
●社会から有益とされる機能を果たす

行政力
行政が
●市民力・企業力を向上させるための支援をする

ぎふのまちの活力を最大化 Spiral Up Gifu Power!

「ひとづくり」（指導力開発）運動　～ＪＣメンバー編～

「親子塾」
◆目的：青少年育成のあり方や地域での子どもとのかかわりを学び実践することで青少年育成のリーダー的な存在になってもらうことを目指します。
［実施日：２００９年５月・９月］

食に対して自分自身はもちろんのこと、子どもたちもさほど関心を持ってはいませんでした。田植えから始まるこの事業では、食の大切さはもちろん、親として子どもに対し、どのように接するべきかを講師の話も含めて理解することができ、親としての反省と共に子育てに対する決意が生まれました。

「経営改善塾」
◆目的：経営者が確固たる信念をもって行動し、その姿を示し続けることが最も大切であることを学び、企業力向上に繋げることを目指します。
［実施日：２００９年４月～６月］

トヨタ生産方式に基づく「カイゼン」をメンバーが自社において実践し、業種を問わず一定の成果を得たことで、「カイゼン」の必要性が実感できました。また、講師から「カイゼン」活動を通して経営に対しての心の持ち方を聞き、改めて自分自身を振り返れる機会となり、今後の経営に対する意識が一層高まりました。

「伊勢一泊研修」
◆目的：伊勢での研修を通じ、謙虚な心と感謝する心に気づき、自分を振り返り見つめ直します。また、やり遂げた達成感を仲間と共有することで結束力を高めることを目指します。
［実施日：２００９年２月１４･１５日］

ＪＣスクール委員会メンバー全員で参加した伊勢一泊研修では、改めて今までの自分の行いを見つめられる機会となりました。自分は独りで生きてきたのでなく、家族や会社のスタッフ、仲間に支えられ生かされてきたのだと感じました。
夜半の五十鈴川での禊は、研修の締めくくりとして、今後の生き方やＪＣ活動に対する決意を固めることができました。

「活動例会」
◆目的：まちを美しくするための事業を行うことで、メンバーが積極的に汗をかき、ぎふのまちに対する愛着を一層深めることを目指します。
［実施日：２００７年６月２３日］

２００７年に実施された例会の一つを紹介します。公募によるＪＣサポーターとＪＣメンバーが岐阜市内各所の公衆トイレを徹底的に磨く事業です。トイレという不浄な場所を一心不乱に磨くことで自分自身の心を磨くという例会です。また、この活動例会と併せて、岐阜市内の小学校のトイレの清掃も、長い期間をかけて実施されました。児童とＪＣメンバーが共に便器を磨くことで物を大切にする心や、気持ちよく使ってもらおうという他人を思いやる心を育むことを目的に実施されました。

「ひとづくり」（指導力開発）運動　～地域住民･青少年編～

「サポーターとの協働」
◆目的：自らが社会やぎふのまちに対して問題意識を持ち、自分達にどのような行動ができるかを考えてもらうことで、ぎふのまちへの愛着をもってもらい、様々な問題に対して主体的に行動できる人材になってもらうことを目指します。

「啓発例会：働く意義・学ぶ意義」
中高生を対象に、講師から「働く意義･努力の意味」を伝えました。若い世代に自覚を持たせることは、我々大人の義務であることを痛感しました。
［実施日：２００９年６月１３日］

「スポーツチャレンジぎふ２００９」
４回目の事業でしたが、今年から加わった中高生サポーターが会場の設営や参加児童の誘導を担当し、子どもたちの感動をＪＣメンバーと共有することができました。
［実施日：２００９年７月１９日］

「中高生サポーター会議」
ＪＣメンバーと共に様々な事業を行うことで地域愛を育み、まちづくりへの期待感を育みました。
［実施日：２００９年3･5･7･8月］

「スイーツフェスタぎふ２００９」
サポーターは事前に担当委員会との打ち合わせを重ね、当日は設営・誘導･スイーツの販売などの役割を担いました。いつもより賑わう柳ケ瀬を見て、まちづくりの大切さを共に感じることができました。
［実施日：２００９年８月１日］

「青年経済人フォーラム」
◆目的：我々地域に住む青年経済人が情報収集とコミュニティの構築によって知恵と創造力を生み出すことを学び、地道な力が日本経済を救うんだというモチベーションアップに繋げることを目指します。
［実施日：２００９年５月２２日］

地域の経営者を中心に参加者を募り「地方の若き原動力が日本経済を救う」を演題に慶応義塾大学総合政策学部、岸教授から講演を頂きました。地域経済と密接な関わりを持つ者として、自らの担う役割の重要さに戸惑いながらも、「自分自身の他に誰がやるのだ」という気概を持つことができました。ＪＣメンバーや一般の参加者も同じ想いを持ったかのような熱気が漂う講演会でした。

「わんぱく相撲」
◆目的：国技である相撲を通じ、子どもたちの心身を鍛え、礼儀や挨拶の大切さを学んでもらいます。また、親や指導者に対する感謝の気持ちや相手のことを思いやる心を持ってもらうことを目指します。
［実施日：２００９年６月２８日］

今年は、残念ながら全国大会の出場ができませんでしたが、市内全校に岐阜場所開催を告知し、相撲から得られる素晴らしさを知ってもらえたと思います。そして、大会では未経験の子どもたちも参加し、熱戦が見られました。私達の目的も充分に達成できたと思います。

「まちづくり」（社会開発）運動について

第３７回岐阜まつり協賛

『道三まつり』みこしパレード

◆目的：メンバーが一丸となり情熱をもってみこしを担ぎ、木遣りを唄うことで、まちの賑わいを創出し、多くの市民にまちづくりにかける岐阜ＪＣの意気込みを感じてもらうことを目指します。

［実施日：２００９年４月４日］

戦後眠っていた伊奈波神社の本みこしを岐阜ＪＣが担ぎ出して以来、伝統的な事業であり、スクール生がＪＣ入会後初めて担当する事業となります。ぎふのまちの賑わいに一役買おうという先輩方の意気込みを、みこし・木遣りの練習を通して体に染み込ませた結果、まつり当日には、先輩方の想いに並ぶことができたと感じました。そしてその想いが市民に伝わり、ぎふのまちの賑わいに貢献できたと実感しました。

スポーツチャレンジぎふ２００９

◆目的：仲間との絆を深め、困難に立ち向かい、やり遂げることで、夢を実現する力を育みます。また喜びや感動を共有することで、大人と子どもがより強い絆で結ばれた地域を作り出すことを目指します。

［実施日：２００９年７月１９日］

回を積み重ね、４度目を迎えた３０人３１脚への参加小学校も過去最高となりました。子どもたちとは練習の段階からＰＴＡや先生方、地域の方々と共に参加・支援し相互の信頼関係が築けたと思います。しかし、３０人３１脚は練習の積み重ねが重要で、１人ではできません。私自身、支援を通して学校やクラスの仲間と繰り返し練習をすることで友情が深まる様子が感じ取れ、心に残る事業となりました。

スイーツフェスタぎふ２００９

◆目的：スイーツを切り口に、市民・企業･行政が協働し、中心市街地の魅力創出と活性化を目指します。

［実施日：２００９年８月１日］

中心市街地の活性化をスイーツを切り口に行うスイーツフェスタぎふでは、私達スクール生も企画の段階から積極的に関わることができました。事前の広報活動、有名スイーツショップの出店などが市民の心を掴み、柳ヶ瀬は想像以上の賑わいとなりました。

私達もいつか多くの市民に魅力を感じて頂ける事業を創りたいと思うと同時に、まちづくりの重要性を改めて実感しました。

「長良川薪能」

◆目的：名勝金華山と清流長良川を背景に繰り広げられる能を鑑賞することで、感性を豊かにし心に安らぎを感じてもらいます。また素晴らしい文化を持つぎふのまちを誇りに思う心と郷土愛を育むことを目指します。

［実施日：２００９年８月２８日］

長良川薪能では、市民はもちろん多くの方が鑑賞のために岐阜を訪れる夏の風物詩となった事業です。３５年に亘り、行政と協力し、岐阜ＪＣサポーターと共に協働しながら、岐阜ＪＣが広報・企画・設営のすべてを行ってきました。現在では岐阜ＪＣの手を放れて市民の手により運営されていますが、ＪＣスクール委員会は薪能開催日に鑑賞も兼ねて運営のサポートを行っています。